



覇 志

西門川中学校だより 第21号

令和2年3月27日発行

文責 校長 後藤 直樹

さようなら 西門川中学校！

○ 今年度を振り返ってみると、新入生がないという異例のスタートだった。やはり寂しかった。5月には元号が令和に変わり、小中合同運動会や学習・文化発表会など、どの行事にも、「西門川中最後の」がついた。3月にはコロナウイルス感染拡大防止のために、ほぼ1ヶ月の臨時休業を実施した。ゆえに大幅に予定を変更させられた。3年生を送る会や弁当の日、防災教育など中止せざるを得ない事態になった。その中で、県立高校一般入試や卒業式、修了式、離任式を規模縮小や時間変更はあったにせよ実施できたことは本当に有難いことだった。3年生は、それぞれの進路に、2年生は、門川中学校の3年生として、そして、先生方はこれから赴任される学校にそれぞれ別れていく。さようなら、そして、ありがとう。西門川中学校。



送辞（骨子）

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。先輩方との一番の思い出は小中合同運動会です。先輩方と心をひとつにして盛り上げた運動会は忘れられない思い出になりました。また、生徒会活動でもさすが3年生という姿を見せてくれました。共に活動した学習・文化発表会や花壇学習、しめ縄づくりも心に残っています。先輩方はどんな困難にも立ち向かっていけます。最高の仲間がいるからです。これからの活躍をお祈りいたします。



校長式辞 骨子

チャレンジとチェンジというテーマで教育活動を行ってきたが、みんなの活躍からそれを感じることができた。65年の歴史を誇る西門川中学校の最後の卒業生として、自信と誇りをもって4月から始まる新生活を頑張ってもらいたい。常にチャレンジすることと君達を応援し、支えてくれる方々に感謝することも忘れてはいけない。さだまさしさんの曲の一節に「自分の人生の中では自分が主人公」ということばがある。他人が大きく見えたたり、自分が小さく感じたりしても、他人は脇役だ。自分の人生は、自分が主人公である。このことを忘れないでほしい。生徒に関わってくださった皆様に感謝を申し上げる。卒業おめでとう。



答辞（骨子）

3年間、この学校でこの仲間とともに素晴らしい時を過ごすことができました。時には衝突することもあったけれど、そのたびにお互いの個性を認め合い成長することができました。これから別々の道を歩き始める私達ですが、西門川の思い出を胸に進んでいきます。先生方との出会いに感謝します。最後にお父さん、お母さんいつも支えてくれてありがとう。西門川中学校最後の卒業生であるという誇りを持ちこれからの道を進んでいくことを約束します。

《編集後記》 ここに赴任してすぐに2年後に閉校になると聞かされました。自分の退職とも重なり運命的な出来事だなと感じました。振り返るとあつという間の2年間でした。自分なりに頑張れたと思います。生徒や先生方のおかげで楽しい日々を過ごすことができましたし、様々な面において成果を残すことができましたと感じます。西門川中学校に関わってこられた全ての皆様に感謝いたします。本稿が最後になります。長い間、ありがとうございました。